

った。それだけに、よく知られた山域に入るのとはちがった新鮮味を感じることができる。

今回の合宿では全体で13本の沢の遡行(下降)を実施することができた。下降ルートの関係から、このうち3本は壩上川の他の支流の水系(小川水系2, 中津川水系 = 記録は18頁のものと重複するので割愛)と松川水系(疎沢)のものである。

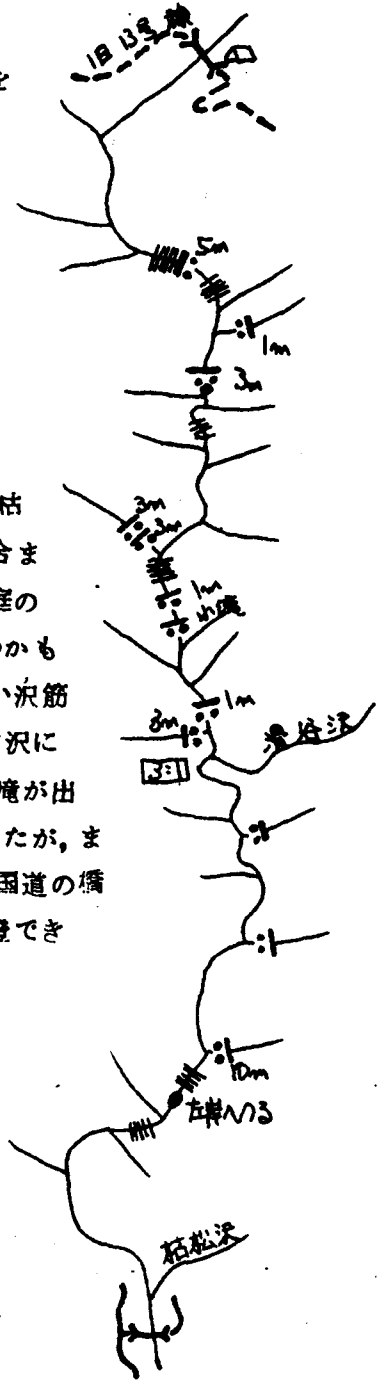
鳥川下流部

1981年8月29日

鳥川林道ゲートに車を置き、林道を歩く。林道は枯松沢出合までのびている。10:15入谷。滑谷沢出合までは小さなナメとトロがあるだけで全く平凡。茂庭の沢は当たりはずれが大きいから、この沢はだめなのかもしれない。滑谷沢出合 12:15。変わりばえのしない沢筋が続く。小休止後気をとり直して出発。12:45, 支沢に入る尖戸パーティに別れる。とたんに1mほどの小滝が出てきた。沢の様相が変わる前ぶれだろうか期待したが、またもこの平凡な沢筋に変わってしまった。旧13号国道の橋まで平凡。5m程の滝が1つだけあって、右岸を直登できたことだけがとりえの沢だった。

鳥川はイワナ釣りで有名だが、その割にイワナの姿を見ることはなかった。釣師の数が多すぎて、林道から簡単に入谷でき、悪場もないこのような沢に住むイワナはとりつくされてしまう運命にあるのだろうか。

鳥川林道ゲート(8:10)——枯松沢出合(10:10)——滑谷沢出合(12:15)——橋(14:35)



鳥川下流部(作図:西)